
超次元ゲームネプテューヌ～絶望はこの身に希望は我が手の中に～

燐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超次元ゲームネプテューヌ〜絶望はこの身に希望は我が手の中に〜

【Nコード】

N9114Y

【作者名】

燐

【あらすじ】

彼女達に希望を己は絶望を背負うと決意した少年は冥獄界で静かに眠っていたがある出来事をきっかけに再びゲームギョウ界に舞い降りた人間としてはなく女神の対極した存在である冥獄神『ブラッディハート』として混沌と破滅に進むゲームギョウ界を目の前に少年は何を思い行動するのかそして少年の前に最大にして最凶の敵が立ちふさがり史上最悪の封印がいまここに解かれる！

少年は仲間と協力し女神を救うことができるのか！？再び世界を守

ることができるのか！？『超次元ゲームネプテューヌ』黒閃の騎士
』の続編これはオリジナル多いよ！

プロローグ（前書き）

始めてしまった・・・まだ決めたところまで外伝進めていないのに
期末中なのに・・・とりあえず更新は遅めだと思いますがどうぞよ
ろしくお願いします！

プロローグ

ゲームギョウ界という一つの世界があった

別にめずらしくない至って普通の世界の筈だった世界を滅ぼす悪と戦いそして勝ちそしてまた悪が現れ女神と言う存在が悪を滅ぼすそして最後は一からやり直しいつでもそれで永遠に変わることのないそんな世界にある一人のイレギュラーにより全ての法則が壊された少年はただ守りたかったそして認めたくなかったゲームのようにはじめから、おわりまで全部が決められたこの世界が嫌だった

ゲームギョウ界にある四つの大陸

革新する紫の大地
『プラネテューヌ』

重厚なる黒の大地
『ラストイシヨン』

雄大なる緑の大地
『リンボックス』

夢見る白の大地

『ルウイー』

少年は渡り歩いたあるべき自分を探した・・・そして絶望した自分は
この世界の住民ではないイレギュラーだとしてもその中でも自分の
居場所を見つけることができた彼は頑張ったがむしろただ守
りたい一心に全てが無駄だということを知るまで知ってしまったと
き彼は再び絶望したしかし彼を支えてくれる仲間がいた。

だから頑張れたなんとも真実に打ちのめされてもそれでも突き進ん
だ自分がやっていることに正しいなんてないけど自分はそれがいや
だから

一緒に訓練をした彼女を

一緒にゲームをした彼女を

一緒に読書した彼女を

一緒に笑い合った彼女を

居なかったことになんてできない

そんなことは求めれないと自分は人間ではないナニカでもこの思い
はこの感情は人間だと信じているから

少年は力を欲したそれが禁断の力でも構わない彼女達を守れるなら
それでいいそして少年は『神』になった

絶対的な武装を手
に
揺るぎなき信念を心に

それは同時に世界を守護する彼女たちと対極になろうとも彼にもは
や迷いなんてなかった

そして少年は

定められた因果を
変わらない運命を
決められた物語を

そして世界すらも破壊した

超次元ゲームネプテューヌ
・・始まります
又、絶望はこの身に希望は我が手の中に、

プロローグ（後書き）

今日はこれ含めて三回更新する予定

絶望の始り（前書き）

今日寒い・・・っす

絶望の始り

そこは地獄というには優しくゴミ場というには無残な場所そのなかで漂う『悪』があつた

その『悪』には拳があつた無骨で人のような五本の指でけれど繋がっているのはモノはあまりにも異常な姿だった。

四つに分かれた黒いコートのようなものに人らしき顔を全身に浮き出ている身体その存在に顔はなく代わりに胴体に血走った一つの眼が迫りくる四つの閃光を捕らえていた

――魔皇の神域
ゼブル・アンドロメダ

それは何かに繋がっていたその根元には全身を漆黒色の飾りげのないコートで覆っており男なのか女なのかそんなことも一体何を見ているのかもさえ分からない

「はああああ――！」

「てえええい――！」

紫と黒の閃光が迫りくるその誰かは眼中になさそうにただ立つ尽くすが彼を根元に生まれた『悪』はその剛腕を振るい振り下ろされようとした刃を弾く

「そこです――！」

両手を塞がれガラ空きとなった背後に緑の閃光はその手に大型ランスを手には大気を貫きながら疾走するが四つに分かれた布切れは意思を持つようにランスは包みこみそのまま地面に所有者ごと叩き込んだ

「叩き・・・潰す!!」

更に上空に戦斧を持った白が流星の如く降ってくるが一つだけの眼が白を写した瞬間、極光が放たれ反撃も許さず白は地面へと落ちた

「ブラン！」

紫が仲間であろう白に声を掛けた瞬間抑えていた拳が太刀を弾きそのまま裏拳を叩き込まれ壁に埋まり沈黙する

「・・・っつ！」

もう一人拳を抑えていた黒が舌を打つ誰かはそこで誰かはこの戦闘で初めて（・・・・・・）見て黒をそして・・・

「・・・潰れる」

そう呟いた

「ぐっ・・・」

自分の武器ごと地面に叩きこまれた緑が置き上がる目の前の光景に

目を疑った白は全身を焼かれたように赤色になり黒は壁に叩きこまれ沈黙化しており紫は地面を一体とされ動く気配を全くさせない・
・自分を覗き全滅・・その言葉が頭を過った

ぱちぱちぱち

紅い大地で突如手をたたき合う音が響くその音に誰かはその方向へ向くそこにはまるで天使のような翼を広げその逆な邪悪な悪魔のような笑みを造りその手には死神を思わせる大鎌が握られていた

「見事だ」

ただ一言呟くその反応に誰かは喜びも悲しみも感じない顔も全てが見えないほどにフードを深く被っているからだ

「こいつらは・・・捕縛するでいいんだよな」

誰かは彼女に問う。彼女は満足げに頷き誰かは緑とは違う紫を叩きつけた壁に向かって歩き出した

「――！」

まずいと緑は痛む身体を無理やり動かそうとするあそこにはあの子がいる！

「ふっ・・・」

後ろから零れる女性の声振り向きことさえ許されず緑は意識を殺さ

れ地面へと堕ちる

「に・・・げ・・・て・・・」

紫が必死に声を上げる自分以外の誰かに訴えるように誰かは紫の前に立ち自分の背後に浮かぶ『悪』に指令を送る

「・・・ね・・・ぷ」

無情にも言い切る前に『悪』の拳撃は紫に叩きこまれた強大な力の前に壁に亀裂が入り紫ごと空中へ放り投げられる

「お姉ちゃんー！！！！」

紅い大地の中で一際目立つ桃色が砕けた壁の中から姿を現す紫は空中を数回回り地面へと堕ちるもつすでにその目に光は灯ってはい

「ひっ……………！！」

前を向けばそこには『恐怖』があつた女神達四人を相手に圧倒しその背後には自分の姉に止めをさした『悪』

「おねがい……………もう、やめて……………このままじゃ……………！！」

祈るように手を合わす彼女を見ながら誰かは興味無さそうに背後の『悪』に指令を送る

「ゲームギョウ界が……！」

ゆつくりと拳を彼女に狙いを定める抗う力を持たない彼女はただ訴えることしか出来ない

「壊れちゃうよ ……！！！」

拳は降り下ろされ辺りに静寂が訪れた

20XX年

ゲームギョウ界は再びマジコンネの脅威に曝されていた

設立された犯罪組織『マジエコンヌ』と呼ばれる謎の組織の出現。

違法ディスク『マジコン』と呼ばれる奇妙なアイテムを大陸全土にばらまきそれによりシヨップは枯れ

クリエイターは飢え、あらゆるギョウカイ人が全滅したかに思えた。

無法世界とは縁遠いゲームギョウ界も、マジエコンヌの登場以来、人々のモラルは低下の一途をたどるばかりで、もはや大陸人口の大半はマジエコを崇めつつある

取り締まるべき政府も何故かスルーしまくりで、とにかくゲームギョウ界は滅茶苦茶に、そこらの民度の低い無法世界になりつつあった。

そんなゲームギョウ界の対になるモンスター誕生の裏世界『冥獄界』では……

絶望の始り（後書き）

四女神を相手に超余裕のチート、マジック・ザ・ハードが優しい？
とうか柔らかいです原作とはちょい違いますから生まれが

目覚める冥獄神『ブラッディハート』（前書き）

ちあひ・・・じいちゃん

目覚める冥獄神『ブラッディハート』

肉が裂ける音

断末魔の雄叫び

異形の咆哮

魑魅魍魎の存在が蠢きただ渴きを潤すためただ殺し合う

生きるために

快楽を得るために

自由を得るために

そんな理由があるかも知れないかもしれないだがそんな混沌とした世界でも唯一モンスターが近づけない場所があった

名前はないただ中世を感じる屋敷だが目が痛くなるほどの真紅に染まっているだけ

「……………」

誰もが硬直する黄金と真紅の玉座に座る黒髪の少年

[illegible]

一緒に遊ぼうよ

あそぼうよ

アソボウヨ

ただ永遠と押し付けられる（・・・・・・・・）怨嗟の輪転ははや四年、サンオ兄ちゃん助けテ分カルマイコノ苦シミ一緒ニ死ノウ一緒ニ生キヨウ君モ此方へ来イ来イ

一緒に遊ぼうよ

あそぼうよ

アソボウヨ……

ただ永遠と押し付けられる（・・・・・・・・）怨嗟の輪転ははや四年、人の数だけ光があり闇がある

「四年……四年もたったのか」

自分にとってはもっと長い時間を感じられた一日一日が地獄で肉体

についていけない精神の性でなんと壊れかけたか（……）
数えるだけでバカバカしい。それでもあいつ等が笑っていられると
思えば……その信念だけが自分を『零崎 紅夜』を支えてくれる
唯一の柱

「あいつら、元気にしているかな」

四年も会ってないこんな世界にいたただ負の念のみしか感じなく
ゲームギョウ界で起きていることが分からない

ただ……三年前からゲームギョウ界から送られる負の念が多くなっ
ていることが気掛かりだ。あいつらとくにネプテューヌは仕事して
るだろうか

ふと、この屋敷のテラスに出て外の風景を眺める血の色をした夜、
闇色の大地に蠢く紅の影、ここはゲームギョウ界が天国としたらこ
こ（冥獄界）は地獄だな

「……………ん？」

暫くこんな汚く穢れた風景を眺めていると大地に蠢いていたモンス
ターの姿が消えた

「違法ディスクまだ残っていたのか……？」

ネプテューヌ達の前に女神をしていたマジュコネがばら蒔いたと
いう違法ディスクそれは元々アイツ（……）が作ったものでゲイ
ムギョウ界と冥獄界の境界に干渉し冥獄界のモンスターをゲームギ
ョウ界に転送させる為のアイテムだもう全て破棄させたと思ったの
だが……

「……俺がいなくても大丈夫だろ女神がなんとかしてくれる」

そんな考えの中、再び玉座に戻り座る今は冥獄神^{ブラッディハート}として人々の絶望を受け入れないといけない。その行為に慣れないといけない

慣れない限りは俺はゲームギョウ界に行けない迷惑がかかる

相変わらず耳元に訴えられる人々の怨嗟にため息がでるこの世界に来て少しアイツ（・・・）はこの世界を去ったアイツ（・・・）この両方の世界の住民ではないしあっちもあっちでかなり多忙なそうで四年ぐらい出張と元気良く去っていった

「……………」

後ろに体重を掛け赫灼に輝く自分の得物を眺める。これが今の自分が送っている日常

……………

「ん・・・？」

昼寝でもしようと思ったがまた負の念が響いた・・・これは嘆きだ悲しき助ける求める声、今までも聞いてきたその嘆きに何故か俺は

その声に耳を澄ます

.....

とても、とても懐かしい声だった

「.....ごめん言いつけ破る」

尋常な無いことは分かっただから俺はアイツ（・・・）に貰った不思議な形をし紅い宝石が埋め込まれたイヤリングを握り呟く

空いている手を上空に突き上げると同時に馴染んだ重さを感じそれを回転させ持ち手を交代し左肩に置く

腰に巻き付けているホルダーに二つの緋色の拳銃があるのを確認し前方に手を向ける

その先には闇が発生してそれはブラックホールのように渦巻き始める

「.....」

ふと横に飾られていた悪趣味なデザインの鏡が目に入るそこに写っているのは自分の変わり果てた姿

右顔と銀から黒に変わってしまった髪を残し肌を全て隠すように包帯で巻かれている自分の姿

人々の怨嗟とモンスターの獣吼によりまともに寝れるわけなく目の周囲は黒ずみ死者のような蒼き瞳が冷たく光る

「あいつらは……変わらないでほしいな」

そう願いなにか異常が起きたであろうゲームギョウ界に旅立つ

だが俺はそのとき知らなかった守ると決めたネプテューヌ達は囚われの身にゲームギョウ界はマジコンネの手により無法と化した世界になっっているなんて

そんな絶望を希望に変えるための物語が今ここ始まった

目覚める冥獄神『ブラッディハート』（後書き）

アイツはまだ出て来ないです忙しいですから

次回は・・・プラネテューヌかな？ラスティションでも回しやすいですが・・・迷い中

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9114y/>

超次元ゲームネプテューヌ～絶望はこの身に希望は我が手の中に～

2011年11月27日10時54分発行